

ESG指数とパッシブ運用

—多様なESG投資—

内 誠一郎

目 次

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. わが国におけるESG投資開始の号砲 | 4. 付加価値を持つ指数 |
| 2. アナウンスメント効果 | 5. まとめ |
| 3. アクティブ運用におけるESG統合 | |

GPIFがESG指数を使った投資を開始したことを受け、今後わが国でもESG投資が拡大することが見込まれる。今回GPIFが採用したESG指数を紹介し、それらの指数が持つ意味やアナウンスメント効果などの役割を説明する。また、アクティブ運用におけるESG統合の事例も紹介する。その上で、ますます増加する「付加価値を持つ指数」の位置付けと、「アクティブ運用とパッシブ運用」に関する議論の変遷について論じる。

1. わが国におけるESG投資開始の号砲

(1) GPIFによるESG指数の公募

2016年7月、年金積立金管理運用独立行政法人（以下、GPIF）は、国内株を対象としたESG指数の公募を開始した。GPIFは14年にスチュワードシップ・コードに賛同しており、またESG投資のあり方に関する調査委託研究を実施し、15年にはPRI（Principle for Responsible Investment）に署名していた。このように振り返ると、GPIFはかなり以前からESG投資に関心を示し、実践に

向けた準備を着々と進めてきたことが分かる。そして16年の公募からちょうど一年たった17年7月3日、3種類のESG指数を採用したと発表した。これがわが国における本格的ESG投資の開始であったと言っても決して過言ではないだろう。

これまでわが国でも一部の企業年金や公的年金等がESG投資を行っていたが、それらはあくまでも限定的なものだった。しかし、世界最大の公的年金であるGPIFがESG指数による投資を開始した今、ESG投資を数年後にやめることは考えがたく、むしろもっと大規模に取り組む可能性が高い



内 誠一郎（うち せいいちろう）

MSCIのマネージング・ディレクター。日本における指数及びESGビジネスの責任者。2010年9月のMSCI入社以前は、スタンダード&プアーズでアジア地域のインデックス・マーケティングを担当し、その前は、東京証券取引所で上場・決済・調査関連部署や同ニューヨーク事務所で勤務。訳著に「株価指数の徹底活用術」（東洋経済新報社）。証券アナリストジャーナル等の専門誌にベンチマーク等に関する寄稿論文多数。